

平成21年度 「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
帝京大学	1-1	<p>《帝京大学》 チームスローガン：「エンジョイ&チームワーク」 いかに選手たちが目標に向かって良い準備をしていくか。選手達にとって爽やかな誇りに思える活動を目指し、全力を出し合ってしっかりとラグビーをエンジョイさせたいまた活動を通して、選手達の人間的な成長にもつながるとともに、多くの方に感動を与え、スポーツの魅力を伝えていくことが出来るようなチームにしていきたいと考えています。</p> <p>今年の戦い方 我々のチームメンバーにあった戦略、戦術をしっかりと高めていきたい。基礎的なプレー、基礎戦術を選手たちにしっかりと習熟させていくことに重点をおいてきました。昨シーズン得たよい経験値を生かし、我々の強みを前面に出すための戦略、戦術で戦いたいと考えています。これまで同様決して派手な戦い方が我々に合っているとも思いません。大学のトップに立てる準備として、練習の中で厳しい場面を何度も繰り返して、それをミスで終わらせるのではなく、精度に上げられるようなチームに育ててゲームに臨みたいと思っています。</p> <p>昨シーズンは、対抗戦優勝と大学選手権準優勝でとても嬉しい結果を得ることが出来、そして、あと1勝の違いも体験することが出来ました。今シーズンは、あとひとつ先にある大きな喜びの味を1年の締めくくりに味わいたい。その目標に向かって対抗戦からしっかりと戦っていきたくと考えています。 今シーズンも昨年同様、多くの皆さんの温かい応援がいただけますようよろしくお願いいたします。 監督 岩出雅之</p> <p>新戦力 森 太志 (3年 HO 仙台育英) 富永 浩史 (3年 SO 高鍋)</p>
早稲田大学	1-2	<p>早稲田大学</p> <p>今年度、早稲田大学ラグビー蹴球部のスローガンは『Explosion』。『爆発』つまり、原形をとどめない劇的な進化をすることを目指しています。昨年度・一昨年度を超えて進化すべく、選手同士お互いが刺激し合うことで爆発の連鎖を起します。主将早田健二を筆頭に、個人として、チームとして、絶えず成長を遂げていきます。また、今年度は『Explosion』と並び、チーム目標として『ジェントルマンシップ』を掲げています。挨拶・清掃・マナーなど当たり前の事から始め、単にラグビーだけでなく、グラウンド外、生活面からも進化していきたいと考えております。</p> <p>新戦力については、36名の選手が新たに加わりました。有望な選手も多く、チーム内競争の活性化を期待しております。中でも、伊藤平一郎・原田季郎は春から活躍を見せ、来たるシーズンでもチームの重要な戦力として考えております。</p> <p>今年度も大学日本一を奪取すべく、部員一丸となって突き進んで参ります。春から取り組んできたディフェンス・ブレイクダウンにこだわり、一戦一戦ベストゲームを目指して、激しく厳しく戦います。劇的な進化を遂げていくチームを、是非皆様に見ていただきたいと考えております。</p>
日本体育大学	1-3	<p>チームの特色と新戦力</p> <p>日本体育大学ラグビー部 ヘッドコーチ 米地 徹</p> <p>今シーズンにおける我々の目標は大学選手権に出場し勝利をおさめることである。昨シーズンは大学選手権1回戦で力及ばず、敗戦してしまった。今シーズンは対抗戦において1戦1戦を大切に戦い、チーム力をアップさせながらまずは大学選手権に出場を決め、一つでも多くの勝利を収めたい。目標達成のために、北海道中標津町で行った夏合宿においてはランニングラグビーをおこなうべくフィットネスの向上とセットプレーの安定に時間を割いた。ボールを大きく展開し機動力のある第3列を活かし、スピードのあるBKで得点を取ることができれば、勝利が見えてくる。夏合宿で発表された主将 廣瀬良太 (PR、日川)、副主将 豊前貴士 (WTB、高崎商業) がリーダーシップを発揮しチームもまとまりつつある。</p> <p>新戦力としては、昨シーズンから出場機会があった2年LO新聞世志輝 (酒田工業)、FL・NO8安達洋介 (青森北)、高井迪郎 (みちろう) (大分舞鶴)、CTB辰川翔 (広島工業) が力をつけてきた。また、2年PR 崩 (くすね) 友太 (戸西)、1年CTB 嶽間沢 (がくまさわ) 秀幸 (黒沢尻北) らがレギュラー争いを行っている。</p>
慶應義塾大学	1-4	<p>【今シーズンのチームの特色】 今シーズンも慶應義塾体育會蹴球部は強みである低く鋭いタックルをベースとしたディフェンスからゲームを組み立てていきます。Natural Rugby をコンセプトとし、シンプルなアタックと抜群のフィットネスでボールをダイナミックに動かして1 vs 1 を作り、ゲインライン突破にチャレンジし得点していきます。ディフェンスではシンプルなシステムと低く鋭いタックルでゲインラインを守り、ターンオーバーを目指します。</p> <p>松本主将を中心に全員が「全力を尽くす」「仲間と助け合う」「挑戦し続ける」をモットーに、145名の熱で目標を達成したいと思ひます。 また、今年慶應義塾体育會蹴球部は創部110周年を迎えました。この記念すべき年に日本一になれるよう頑張りますので皆様のご声援を宜しくお願い致します。</p> <p>【新戦力】 1年 新甫拓 (FB・慶應義塾高校出身) 高校入学後は怪我に悩まされ続けるも3年時にはチームを花園予選決勝まで導く活躍を見せ、神奈川県選抜にも選ばれる。大学では1年目からシニアチームに入り、1年生ながら落ち着いたプレーでメンバー争いに加わっている。</p>

平成21年度 「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
筑波大学	2-1	<p>筑波大学</p> <p>■今シーズンのチームの特徴 チーム一堅実な男 荒木寿浩（大阪・生野）を主将に配し、「タックル&サポート」への原点回帰を軸としたチームづくりを行ってきました。チームスローガンの「PRIDE」は、タックルとサポートに対する学生達の思いから決定しました。春から主力候補のケガが続きましたが、7月以降の復帰や一年生の成長で、チームはよい状態に仕上がってきています。突出した選手がいない分、選手個々の体を張ったしつこいプレーが鍵。今季も全員ラグビーで、初の「国立」を目指し戦っていきます。</p> <p>■新戦力 昨年卒業した4年生のポジションにおいて、以下の1年生がレギュラー争いに加わっています。 大学での経験を積み、シーズン中の更なる成長にも期待。 HO彦坂圭克、LO鶴谷昌隆、NOB山崎章平、CTB中霧憲章、WTB彦坂匡克、FB内田啓太</p>
明治大学	2-2	<p>明治大学ラグビー部 2009年、チームの特徴</p> <p>「今年の明治は走り抜きます」</p> <p>この春から「走れる」ということにこだわってチームを作ってきました。フォワード、バックスともこの特徴に尽きると思います。もちろんセットプレー、スクラム、ラインアウトなどで安定して力を発揮できるように基礎もしっかりと固めてきました。春から走り込んできたことで、この夏にはグッとフィジカル面で向上しています。バックスだけでなくフォワードも走れるチームは、明治本来の「前へ出るラグビー」をより強く、スピード感のあるものにしていきます。主将の金澤章太をはじめ選手一人一人が、自身の状況判断をきちんともってプレーできることも特徴のひとつ。フォワードからバックスへのコンビネーションも多彩です。80分間、しっかりと守って、どこからでもアグレッシブに攻撃できるチームを目指して練習を積んできました。もちろん、明治大学はチャレンジャーとして真摯な気持ちで強豪との試合に臨みます。100%の力を出しければ、自ずと結果がついてくるはず。シーズンまでに積み上げて来たものを一戦一戦出しきって前へ出るラグビーで戦っていきます。</p>
成蹊大学	2-3	<p>成蹊大学ラグビーフットボール部</p> <p>【チーム紹介】 私達成蹊大学ラグビー部は学生主体で運営しております。部員数も少数であり環境は決して恵まれているとは言えません。しかしながら、日々の練習で基本プレーの習得を徹底し、対抗戦3年目の年を飛躍の年とするべく、チームスローガンである「REACTION」を胸に一丸となって果敢にチャレンジしていきます。</p> <p>【新戦力】 PR三浦嶺・FL三浦豪(共に成蹊高校)の双子兄弟はヒット・タックル共に同期の中で目を見張るものがあり、LOの三浦圭介(大磯高校)はチーム一の長身でラインアウトでの活躍が期待できます。 BK陣ではCTB藤本健友(成蹊高校)は縦に強くDFラインを切り裂くプレーを得意とし、FBの尾上敬洋(大分県立高田高校)は広い視野で最後尾からゲームをコントロールする力に長けています。この三浦トリオ、藤本、尾上は秋の公式戦のピッチに立つ可能性を十分に秘めています</p>
立教大学	2-4	<p>2009年立教ラグビー</p> <p><スローガン> 今年の立教ラグビーは、「全国大学選手権出場」を目標とし、スローガンに「奮迅～Unite to Enjoy～」を掲げております。日々、目標に向かって奮迅し続け、一日一日を大切に、常に向上し続けます。厳しく辛い事にも、その先にある目標達成という喜びを目指してひとつひとつ乗り越えていきます。</p> <p><チームの特色> FOLLOWで勝つ「FOLLOW RUGBY」を目指しています。 80分間、全員で勝負し、全員でそれをFOLLOWするラグビー、それが「FOLLOW RUGBY」です。まだまだ未完成ですが、スタイル確立を目指して奮迅していきます。</p> <p><新戦力> 17名の新入部員が加わりました。(選手15名、マネージャー1名、トレーナー1名) 高校日本代表に選ばれた宣原甲太(常翔啓光学園出身)などレギュラー争いに絡む選手から、高校ではバレーボールをやっていた初心者石井優輝(磯部高校出身)など将来楽しみな選手と幅の広い新入生が加わりました。また、スタッフ体制もアドバイザーに三洋電機ワイルドナイツの水間良武選手を迎え、よりラグビーを熱く楽しんでまいります。</p> <p>最後になりますが、本年度も変わらぬご声援を賜れますよう、お願い申し上げます。</p>

平成21年度「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
東海大学	3-1	<p>2009年度東海大学特色</p> <p>昨年度は、リーグ戦優勝、大学選手権ベスト4という結果に終え、初の国立進出となりましたが、目標達成には至りませんでした。今年度は昨年度の反省を踏まえ、「Decision & Execution」というコンセプトのもと、4つのテーマを掲げました。①T90（タックル成功率90%）、②Break Down Domination、③Hard Work、④Good Habitとして、特に春はそれぞれのベースアップを念頭に、根幹となる部分に対して妥協せず非常に高強度のトレーニングを実践してきました。リーグ戦では一戦一戦しっかりと積み重ねていく中で、個々の可能性を最大限に引き上げチームとして大きく成長していきたいと考えています。昨年まで得てきた経験をより進化させ、自分たちの強みを出した新しいスタイルを追究していきたいと思えます。目標の「大学日本一・打倒トップリーグチーム」達成のために全員一丸となって戦っていきます。</p> <p>（新戦力） 有望な新人31名が加入し、その中でもPR坂本、五十嵐、HO松田、LO三上（匠）、NO8村山、SH尾崎、SO阪本、折川、CTB佐藤（壮）、湯ノ迫、WTB小笠原、FB高平らが、高いレベルで期待されます。怪我等で出遅れている選手も他にいますが、今後激しい競争に加わってくるメンバーも多数います。</p>
法政大学	3-2	<p>2009年度 今シーズンの特色と新戦力</p> <p>今年は、春より『セットプレー』『ブレイクダウン』『フィジカル』『フィットネス』の4つを軸として、基本プレーの徹底を行ってきました。</p> <p>特に、スクラムについては、スタート時と比較して、かなり成長した実感があります。今後も更に強化する事により『セットプレー』の一つとして大変期待をかけております。</p> <p>また昨年準決勝において接点で完敗した反省を踏まえ、各人のウエイトアップを（+5Kg）図るべく、先ず寮での食事を決められた時間にきちんと摂取することから取り組みました。以前は朝食を摂らずに授業に出掛けることもあった様ですが、今年は『食事練習の一貫』として徹底させています。1対1で負けない強い身体造りはシーズン通して継続していきます。</p> <p>戦い方としては、フィールドを広く使い、何処からでも展開・攻撃でき、タックルも一発で仕留めるラグビー。つまり、先達たちが築き上げた伝統の戦い方を芯にシーズンに挑みます。</p> <p>春から夏にかけて、新戦力の台頭もありました。仙台育英高校出身の武者（FL）・西陵高校出身の渡邊（FB）・東福岡高校出身の井上（WTB）の3人は春からAチームで試合に出場して、素晴らしいパフォーマンスを見せ、今シーズン大いに期待しています。</p> <p>法政大学ラグビー部としては、歴史ある伝統の上に、新たな法政ラグビーを創造すべく、「チームの規律を重んじ」「人間としての個人」「学生としての個人」「闘う為の個人」「組織における個人」と個人に対する4つ理念を中心に、スローガンとして掲げた“パーフェクション”（Perfection）を達成し、学生・スタッフと共に今年こそ頂点を極めます。</p> <p>法政大学ラグビー部 監督 駒井 孝行</p>
関東学院大学	3-3	<p>平成21年度「今シーズンのチームの特色と新戦力について」 チーム名：関東学院大学ラグビー部</p> <p>今シーズンの関東学院は昨年のシーズン成績（リーグ戦3位、選手権1回戦敗退）には十分満足することができませんでした。そこで今シーズンは主将指名を春シーズン終盤までしないで、選手自身が納得した時点で選んだ主将として安藤泰洋を選びました。</p> <p>今シーズンは昨シーズンの反省を十分踏まえ、チームのスローガンとしては「ディフェンスの強化」を掲げチーム作りを進めてきました。特に、FWとBKSの連携についてはコミュニケーションをテーマに意思統一を含め全員が意識を高く持つよう練習を積み重ねてまいりました。</p> <p>また、新戦力につきましても、25名が新たに加わりました。その中でも岡、五艘（PR）、安井（No8）、権崎（SO）、高橋（健）（CTB）、山下（FB）等Jrチームでも即戦力として活躍できる選手がおり、スタッフとしては非常に期待しております。</p> <p>最後に、関東学院は今シーズンは「Enjoy Rugby」で試合を見に来てくれる多くの人にラグビーの楽しさ、面白さを試合でお見せできるよう選手一丸となって頑張っておりますので、応援よろしくお願いいたします。</p>
日本大学	3-4	<p>チームの特色と新戦力について</p> <p>今年度も関東大学リーグ戦1部で戦えることをうれしく思います。</p> <p>今年の日本大学は加藤ヘッドコーチによる新体制を敷き、部員の私生活や部としての組織の在り方が全てグラウンドでのプレーにつながってくるという意識のもとに新たな伝統を築いていくという意味で「革命元年～For Win～」というスローガンを掲げました。</p> <p>戦力としては、全員中上級生が3分の1しかいない1、2年生主体のチームなのでシーズンを通して一戦一戦成長していくことが求められています。</p> <p>全員がディフェンスにこだわりを持ち3人の留学生による縦の突破を武器に国立競技場に立つことを実現します。</p> <p>応援よろしくお願いいたします。</p>

平成21年度 「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
流通経済大学	4-1	<p>2009年度、『チェンジ、チャレンジ、コミットメント』をスローガンとしました。このスローガンはプレイヤー達が自らの変化と進化を求め、キャプテン川西を中心にリーダーが立てたものです。夏合宿を終え、RKU RUGBYのチェンジが少しずつですが、確実に形になってきていると感じています。それは、フィールドの外で感じています。人に感謝する気持ちや仲間を思う気持ち等、自らの心構えのチェンジをリーダーが率先して行い、それが沢山の選手へ伝わっていることです。もちろんフィールド内でも学年を問わず、ゲームに出る選手はチャレンジ精神を忘れず、体を張り（コミットメント）思いきり戦うようになったと感じています。小さな変化の積み重ねが、大きな変化を作ることを選び、それを信じ、進化し続けていきます。これから激しく、厳しいシーズンに突入しますが、いかなる時も強い絆を持ってそれを乗り越え、RKU RUGBYは今期の目標である『国立に行く！』を全員で掴みにいく所存であります。RUGBYに関わるすべての方々に感謝を忘れず、皆さんに感動して頂けるゲームをしたいと思っています。</p>
中央大学	4-2	<p>部員数61名と少ないながら、中澤主将を中心に4年生が先頭に立ち下級生を引っ張っていく学生らしいチームになっている。スター選手はいないが一人一人がチーム内において自分が何をすべきかをしっかり考え、身につけた行動がきている。</p> <p>FWは、スクラム、ラインアウトからの早い動きと安定したモールによる攻撃力を生かしたい。また、BKでは、キックを交えたオープン攻撃を生かしたい。</p> <p>今年は15人の新人が加入した。春のゲームよりAチームで出場している 藤井（NO8 西陵）、北田（SH 啓光学園）、吉原（CTB 長崎北）、宇野（CTB 京都成章）、高橋（FB 久我山）と、米田（PR 久我山）が上級生とのレギュラー争いに絡んでくる為、今シーズンは若い元気のある中央大学として、シーズンを戦っていく。</p> <p>スローガンは “ Come TRUE ” です。 Trust（信頼）、Reform（革新）、Unite（団結）、Enthusiasm（熱情）</p> <p>4つの言葉の頭文字、この中の一つの言葉でも欠けたとき目標達成がでない為、 Come True（実現できるようにする）とした</p>
拓殖大学	4-3	<p>今年の拓殖大学ラグビー部のスローガンは” Brotherhood” この言葉には、『兄弟の絆』という意味があり、私たち86人すべての部員が同じ寮で暮らし、一年間のほとんどを互いに協力し合い生活している様子を、表したこの言葉をスローガンに採用しました。</p> <p>また、部員が同じ屋根の下に暮らすことによって、外国人選手とも結束力はとても強く、勝利への意識が一つになり、より強い思いをもって寮生活を送っています。</p> <p>スタートメンバーとして戦う15人には、86人の全部員が戦っているという意識を持って戦ってくれるでしょう。また、運動量の多いFWが、テンポの良いラグビーを作りだし、BKが華麗なパスワークと俊足をいかしたプレーでフィニッシュへと導きます。</p> <p>オープン戦での未 completion だったプレーを分析し、一か月に及ぶ夏季強化合宿の中で修正することにより、公式戦前最後の試合では、体を張ったディフェンスとオフェンスで拓殖スタイルを発揮し、理想の勝利を挙げる事が出来ました。</p> <p>「拓大ラグビーをしていて楽しいと思えるプレー・拓大ラグビーを見てもらって楽しいと思ってもらえるプレー」を目指し、グラウンド上を息の合った華麗で激しいラグビーで縦横無尽に駆け回り、一つでも多くの白星を挙げたいと考えています。</p>
大東文化大学	4-4	<p>昨年、最下位という結果を出し、危うく2部転落という最悪の事態も考えられましたが、どうにか1部残留とすることができました。今年は、過去のことは全て忘れ、1度リセットし、春から徹底的に基本的な所から始める方向で再出発し、また、選手たちが決めたスローガン『限界を超える』をキーワードに今シーズン気持ちを入れ替えスターとしました。</p> <p>春からの練習で、1つは基礎体力作りで、80分間継続して持続できる体力作り走力、持久力、コンタクト）、2つめは、基本的なスキル練習（パス、スローイング、キック）を中心に毎日何度も反復し、また練習方法も1・2を交互に練習を取り入れることにより、選手たちに休む隙間を与えないようなトレーニングをやってきました。この厳しさの中で、昨年まで大東に欠けていた原因を個人個人が考え始め、今年は絶対勝たないといけないう意識に変わり、集中力が増し、練習の取り組み方も選手一人一人変わってきました。</p> <p>今年は、インフルエンザが部内に広まりなかなか練習ができず出遅れましたが、その期間中選手同士間でのミーティングする機会も増え、大東に必要な『チームワーク』がレプハ主将中心により一層深まったことは、大東にとってより効果的だったと思います。</p> <p>今年のチームは、技術的、体力的なことはもちろん、何よりもチームワークとしていかに部員全員がまとまるかが、試合の勝敗のキープポイントとなるでしょう。</p> <p>新戦力では、特にBKの福津、鈴木、高塚の1年生ウィングコンビがレギュラー争いに絡んでくるのは間違いなく、3人とも違う良さのあるウィングなのでスタッフを悩ましてくれます。また上級生もいい刺激になり、練習中もお互い火花を散らしてレギュラー争いに奮闘しています。</p> <p style="text-align: center;">大東文化大学ラグビー部 監督 青木 忍</p>

平成21年度「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
日本IBM	5-1	<p>昨年度シーズン終了時に会社から部活動内容の大きな変更が告げられました。選手は考え、悩み、決断し出した結果に全員で前向きに取り組んだことでチームとしての今までにない纏まりが生まれたと思います。スティープHC、高 聡伸キャプテンを筆頭にチームは確実に進歩しています。十分な人数ではないですが選手、スタッフ、関係者全員が一丸となって一戦、一戦挑んでいきたいと思っています。</p> <p>新加入選手 夏目 賢 流通経済大 PR 176cm/102kg 富沢 翔太 帝京大 PR 178cm/105kg 井手 涼一 近畿大 LO 188cm/105kg 湯元 孝治 九州大 CTB 185cm/82kg 西田 英樹 横河 SH 163cm/63kg 南 繁治 ワールド CTB 181cm/86kg 星野 幸喜 サニックスLO 190cm/93kg 馬場 善友 セコム CTB 173cm/80kg</p>
横河武蔵野	5-2	<p>2009年のシーズン、横河武蔵野アトラスターズのチームスローガンは『挑 戦』です。このスローガンの下、我々プレーヤー、スタッフ一丸となりトッピーイストでの全勝優勝を目指します。そして一年でのトップリーグ復帰、トップリーグに定着できるチームにチャレンジしたいと思います。</p> <p>昨年、我々はトップリーグに参戦し貴重な経験をしました。そこから我々は何が足りない買ったかを理解することが出来ました。また何が通用するかも理解しました。強み、弱みを理解しました。それにより高いモチベーションで練習に取り組む姿勢が出来ました。</p> <p>外国人選手に頼っていた部分も日本人選手の成長により、それも少なくなってきています。チームは成長し続けています。また、新戦力として日本代表のフィリップ・オライリー選手、元ワラビーズのスコット・スタニフォース選手も加わり選手層も厚くなりました。選手間の競争の中でレギュラーが決まる理想の形が出来つつあります。選手はまさにレギュラー取りにも日々チャレンジ（挑戦）しています。我々は挑戦者です。妥協する事無くさらなる高みを求めて前進してゆきます。</p> <p>昨シーズンから新たに14名の選手が加入しています。注目は先期までスーパー14ウェスタン・フォースでプレーしていた元豪州代表スコット・スタニフォースと、日本代表で三洋電機ワイルドナイツから移籍のフィリップ・オライリー。両選手の活躍はもちろんのこと、彼らが国際舞台で活躍してきた経験と、ラグビーに取り組む真面目な姿勢は他選手にも大きな刺激を与え、チームそのもののレベルアップに繋がっています。</p>
NTTコミュニケーションズ	5-3	<p>NTTコミュニケーションズ シャイニングアークス</p> <p>全員の悲願であるトップリーグ昇格に向け、来たるべくシーズンを勝ち抜くべく日々努力精進を重ねております。</p> <p>今シーズンについては、対戦相手に合わせるのではなく、自分たちの強みを前面に出しシンプルにテリトリーとミッドフィールドを支配した戦い方を実践したいと考えております。また、昨シーズン以上に強い意識を持って、規律あるチームとなって全勝でイーストリーグを駆け抜けたいと考えております。</p> <p>新戦力としましては、元オーストラリア代表として活躍したマーク ジェラードを筆頭に今期シャイニングアークスに加入してくれた選手全員の活躍を確信しております。</p>
三菱重工相模原	5-4	<p>「勝負」</p> <p>今年度、ダイナボアーズは「勝負」というチームスローガンを掲げ日々励んでいます。ダイナボアーズが掲げる「勝負」という言葉。それはただ「戦いの勝ち負けが決まること」という意味ではありません。持てる力を振り絞って困難に立ち向かうこと、自分自身の弱い心に打ち勝って次の一歩を踏み出すこと、そしてそのような強い気持ちで日々挑戦を続けることを意味しています。</p> <p>ダイナボアーズのメンバーは1日1日のトレーニングで、そのひとつひとつのプレーで、常に目の前の相手との、そして自分自身との「勝負」を重ねてきました。</p> <p>これから、その真価を問う戦いが始まります。勝利のために、そして応援して下さいみなさんと喜びを分かちあうために、ダイナボアーズはスタッフ・選手が一丸となって、トップリーグ昇格に向けた「勝負」に挑みます。</p> <p>トロイフラベル（LO）に加えて今年新加入したデビット・ミロ（LO,FL.No8）、イシュマ・エル・ドリー（SO）、ヘナリ・ベラタウ（CTB,FB）ら外国人選手と小松（PR）、須藤（LO）、堀越（FL.No8）といった日本人移籍選手の加入により、チーム内の競争が激化しチーム全体がレベルアップしてきています。</p> <p>FWとBKが一体となり、接点で負けない激しいラグビーを目指します。</p>

平成21年度「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
東京ガス	6-1	<p>【東京ガスラグビー部】 1. 2009年シーズン・チームスタッフ体制 代表 杉山 昌樹 部長 柴田 陽一 副部長 打矢 二郎 吉村 恒 アドバイザー 鶴沼 俊夫 ヘッドコーチ 内藤 晴児 キャプテン 穂坂 巨 副キャプテン 箱崎 友己 小吹 和也 FWリーダー 深澤 泰山 2. 2009年・チームスローガン 「BREAK OUT」 トップイースト各対戦チーム、また、トップイースト12リーグを突き破るという意味で設定。 3. 春シーズン及び夏合宿の戦績 □A試合：8勝1敗 対戦相手：勝・ヤクルト、キャノン、クボタ、JAL、東海大学、栗田工業、三菱重工、横河武蔵野 負・ドコモ関西 □B試合：0勝4敗 対戦相手：負・東海大学、三菱重工、横河武蔵野、キャノン 4. チーム目標、及び、チーム特徴 チーム目標：トップイースト12優勝が目標だが、初戦のサントリーフーズ戦が一番重要と考えている。 先を見据えた戦いが出来るチームでは無い為、一戦必勝で戦っていききたい。 チーム特徴：チームスローガン「BREAK OUT」の意識をベースにクイックネス&スキルフルラグビー 5. 2009年シーズン注目新人選手 □新人選手 ・橋本 樹（早稲田大学卒）LO・長尾 岳人（早稲田大学卒）SO/CTB・皆良田 勝（慶応義塾大学卒）SH・谷 直哉（秋田中央高校卒）SO/FB ・CHARLES WYLLIE（QUEENSLAND REDS XV/2008）LO/FL・HENDRIK MEYER（CHEETAHS/2008）CTB</p>
セコム	6-2	<p>創部24年目を迎えるセコムラグッツは、2003年トップリーグ創設期のメンバーとして、悲願の日本一をめざし活動してまいりましたが本年2月10日(火)、チームの強化中止が発表されました。それにとめない、多くの選手やスタッフが引退・退職、他チームへ移籍しましたが、チームに残った16名の選手に加え、ラグビー部引退し、社業に専念していたかつての仲間がグラウンドに復帰、さらには今年の新入社員2名をチームに迎え、新たな気持ちで今季の「トップイーストリーグ12」に出場する運びとなりました。今シーズンのチームスローガンは「原点復帰」。アマチュアリズムの精神を貫き、プロスタッフや外国人選手に頼らないセコムグループ社員だけの運営マネジメントを実現し、1年間勝負します。ラグビーができる喜びをかみしめながら、与えられた環境下で精いっぱいプレーすることで競技を心から楽しみ、ラグビーの本質を追求し、これまで以上の激しい戦いをグラウンドで爆発させます。選手たちは、支えられている家族や会社の仲間、関係者はもちろんのこと、日ごろから温かいご支援をいただいている地元・狭山市をはじめとするファンの皆様への感謝を胸に、フェアプレーの精神と、毅然とした態度でリーグ戦に臨みます。今シーズンのラグッツのラグビーにぜひご期待ください。 チームスローガン □ シーズン開幕に向けて チーム代表 荒川 泰 今季のチームスローガンは「原点復帰」です。本当の強さは『力の強さ』で決まるものではなく、『心の強さ』で決まるものだと、お伝えできるような試合をしていきます。ご声援よろしく願いいたします。 監督 渡邊庸介（選手兼任） 強い意志を持った選手だけが集まり、自分たちで考えながら、リーグ戦で戦うための準備を重ねてきました。 ラグッツのどこまでも熱く面白いラグビーを、最後の最後までお伝えしていきます。 主将 姫野拓也 部員数が減少したことで、今まで以上に密にコミュニケーションを取ることが可能となりました。 それにより、チームとしてのまとまりは確実に増えています。全員が一丸となって、1試合1試合を大切に戦っていきます。</p>
釜石シーウェイブス	6-3	<p>特にセットプレー、ベーシックスキル、ディフェンス練習に時間を割いてきました。 釜石らしい、ひたむきなプレーができればと思っています。 一企業チームでは無く、地域クラブとしても強いチームが出来る事を証明したいと思います。 選手、スタッフ、地域、サポーター全ての知恵や力を結集して挑みたいと思っています。 トップ3を目指します。』 釜石シーウェイブスRFC ヘッドコーチ 池村 章宏</p>

平成21年度「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
サントリーフーズ	7-1	<p>SUNTORYFOODS SUNDELPHIS 春先からの徹底したトレーニングで、接点で負けない強靱な身体作りと、どこにも負けないフィットネス作りを行ってきました。春先からの徹底したトレーニングで、接点で負けない強靱な身体作りと、どこにも負けないフィットネス作りを行ってきました。 今シーズンは、「KIBARU(※)」をスローガンに、観ている人を熱くするアグレッシブなラグビーを目指します。 また、今年はフレッシュマン5選手&国内・海外からの加入選手7名の、計12名が新たにチームに加わり、新たな陣容で戦いに挑みます。 サントリーフーズ「サンデルフィス」は、兄貴分サントリー「サンゴリアス」との兄弟対決の実現を目指して、果敢にチャレンジを続けて参ります。 今後とも皆様の応援を宜しくお願いします。</p> <p>(※それぞれ言葉の頭文字を取り、KIBARUとしています) K：KNOWLEDGE（知識） I：INTEGRITY（正直・誠実） B：BRAVE（勇敢な） A：AGGRESSIVE（積極的） R：RUTHLESS（断固として） U：UNITY（統一・まとまり）</p>
栗田工業	7-2	<p>今シーズンのチームの特色】 『Gush your energy』をテーマに掲げ、例年になく個々の基礎能力アップに徹底して取り組んできました。その結果、チーム内に競争が生まれ、自然とチームがまとまり、チーム力がアップしているのを実感しています。 選手達の安定、ディフェンス組織強化と課題は残りますが、夏季合宿期間にリーグとなれる選手、新戦力となる選手が増えてきた事で、急激にチーム力が上がってきたと感じます。開幕戦に向け、再度チーム全員が自分たちに矢印を向け、真摯にラグビーに取り組む、『Gush your energy』をチームとして成し遂げ、目標であるチャンピオン出場権を獲得したいと思えます。</p> <p>【新戦力】 ①和智 堯之（法政大：PR） スクラム強化に課題を残すが、献身的に体を張ってプレー出来る信頼できる選手の一人である。 ②諸隈 和也（同志社大：HO） 春からリーグとしてプレーし、既に中心選手である。全てのプレーで高いパフォーマンスを発揮する。 ③原田 大地（法政大：LO） 春からリーグとしてプレーし、既に中心選手である。ラインアウトの中心選手であり、且つ献身的に体を張ってプレー出来る信頼できる選手の一人である。 ④桑田 直輝（東海大：FL） 春からリーグとしてプレーし、中心選手であったが、怪我により戦線離脱。 タックルが強く、ボール獲得に執念をみせる。シーズン中復帰を期待する選手である。 ⑤佐藤 浩一（立正大：SO） ランニングプレーに優れ、キック距離もある選手である。リーグに定着して欲しい選手である。 ⑥森田 亮平（立命館大：CTB） 縦への突破力が魅力。怪我がちで満足にプレー出来ていなかったが、夏季合宿より戦列復帰。リーグに定着して欲しい選手である。 ⑦山崎 真二（國學院大：FB） 既にリーグ当確の選手。キック処理に安定感があり、出来に斑がなくチームで最も信頼できる選手の一人である。</p>

平成21年度「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
日本航空	8-1	<p>日本航空 JAL WINGS 2009年度チームコメント ヘッドコーチ 梅月 信吾</p> <p>今年のJAL WINGSはキャプテンにFLの藤本智久、バイスカップテンにSHの安藤洋功が就任し、「Quick Rugby」をチームコンセプトに掲げ、春シーズンから基本スキルを中心にチームのベース作りに取り組んで参りました。 攻撃のスタイルはいたってシンプルですが、相手ディフェンスの変化に対応できる力をつけてきました。また、全員が揃って前へ押し上げるディフェンスも今年の特徴です。 新戦力はPR2名、LO1名、CTB1名、WTB1名の計5名で、どの選手も即戦力として活躍が期待できます。PRの中山（帝京大）と工藤（東海大）はサイズもありスクラムで存在感をアピール、LOの柴崎（立正大）は194cmの長身を活かし、ラインアウトで威力を発揮します。CTBの本多（帝京大）は激しいプレーが持ち味で、WTBの名護（関東学院大）は抜群のフィッテネスとスピードでそれぞれレギュラー争いに絡んでおります。</p>
秋田ノーザンブレッツ	8-2	<p>地域に支えられるクラブチームとして発足6年目。トップイーストリーグ加入4年目となります。 昨季は、リーグ加入以来初となる、全敗・最下位との結果に終わり、非常に悔しい思いをいたしました。今季は「One Heart」をチームスローガンとして掲げ、1つでも多くの勝利をつかみとるために、チーム一丸となって練習に取り組んでおります。 トップリーグに引張られる形で、リーグ他チームの強化も著しく、環境は厳しさを増していますが、我々の夢は日本一（トップリーグ優勝）です。大きな夢に向かい、チーム一丸となり、一所懸命にがんばります。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>（新戦力について）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小田部 幸記（おたべ こうき）LO、FL、No.8 新潟大学→（株）秋田銀行 2. 後藤 亨（ごとう あきら）LO 立正大学→秋田信用金庫 3. 渡部 智弘（わたなべ ともひろ）SO、CTB、WTB、FB 国際武道大学→（株）プレステージインターナショナル 4. 田本 光（たもと ひかる）SH、WTB 明善高校→国際教養大学2年 5. 鈴木 貴大（すずき たかひろ）PR、LO 男鹿工業高校→千代田興業（株） 6. 三浦 正嗣（みうら まさし）SH、FB 秋田中央高校→JA秋田みなみ 7. 小熊 泰晴（おくま やすはる）LO 日本体育大学→秋田車両設備（株）
キャノン	8-3	<p>キャノンラグビーフットボールクラブは今シーズン、トップイーストリーグ昇格の初年度を迎えます。今年は昨年からのチーム体制をさらに強化すべく、スタッフに永友洋司ヘッドコーチをはじめ、南アフリカやニュージランドからコーチ陣が加わりました。</p> <p>私たちがチーム理念として掲げたものは、「Respect」（尊敬・尊重）「Discipline」（規律）、そして「Passion」（情熱）の3つ。</p> <p>私たちはこの3つのキーワードを胸に、フィールドの内外を問わず、ひたむきにラグビーと向き合っていきたいと思っております。</p> <p>秋から始まる今シーズンに向けての新チームづくりでは、春シーズン、夏合宿（北見）を通じて、一対一の場面で負けない個人力の強化や、セットプレー、ディフェンスを中心とした組織力の強化に取り組んできました。</p> <p>また、新戦力として11人の日本人選手と4人の外国人選手が移籍。さらに12人の新人を加えて、新チームでは激しいポジション争いが展開されています。チーム内の健全なる競争をエネルギーに、新生キャノンのチームカラーを確立したいと思います。</p> <p>トップリーグへの昇格を視野に、一つひとつのプレーを大切にしながら、チーム一丸となって強豪揃いのトップイーストリーグにチャレンジしていきます。</p>

平成21年度 「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
タマリバクラブ	9-1	<p>【タマリバクラブ】</p> <p>タマリバクラブにとって、今年こそが真の「挑戦」の年となります。 昨年までのクラブ選手権連覇を支えたプレイヤーが転勤、転籍、進学などの理由で大量にチームを去り、完全にフレッシュな状態で迎えるシーズン。</p> <p>但し、二期目を務める井戸主将にとって、選手不足は理由になりえません。限られた選手を「原石」と信じてひたすら磨き続け、タマリバの名の下に全員の心を結集させることでライバルチームと互角に戦う力をつけたいと考えています。</p> <p>特別優れたプレイヤーが存在しない今年ですが、今まで以上に全員が一丸となり、挑戦し続けます。</p>
高麗クラブ	9-2	<p>2009 「東京闘球団」高麗</p> <p>新人選手</p> <p>廬 光(ロ ガンミン) 22歳 明治学院大学(大学時バイスCAP) 姜 湧哲(カン ヨンチョル) 22歳 朝鮮大学校(大学時CAP)</p> <p>○ 即戦力上記2名含め、8名の新戦力加入</p> <p>東京朝鮮高校を中心に、大阪朝鮮高校、九州朝鮮高校、神奈川朝鮮高校卒業生達が主なメンバーです。在日KOREA3世、4世達だけで構成されております。 ALLアタック、ALLディフェンスの朝高ism。80分間絶対に諦めないRUGBYをお見せしたい。 目標は日本選手権出場、大学チャンピオン撃破です。 毎週、火曜日と木曜日の夜、母校の朝鮮高校の人工芝グラウンドにて練習し、日曜日は主に試合(練習試合含む)を中心に活動してまいりました。 仕事とラグビーを愛するクラブチームとして、また東京都の代表として最高のパフォーマンスをお見せしたいと思っております。</p>
北海道バーバリアンズ	9-3	<p>日本のスポーツ団体として初めてNPO法人格を取得して10周年の今季。日本一のクラブチームを目指しております。 今年は「GAIN」というキャッチフレーズのもと、主にブレイクダウンの強化を図ってきました。昨年東日本3位という雪辱を晴らすべく原点に戻って、パスやヒットなどの基礎的な練習に春から取り組んでおります。北海道の各大学から新人も多数加入し、層が厚くなりました。夏場に故障者が多く出ましたが、逆に競争を生み、レギュラー争いが熾烈になっております。 新規加入のプレイヤーは、NO.8平尾(酪農大)、フランカーの橋本(北大)、マテアキ(NZ)ウイングの的場、西明(ともに北大)などです。7月から8月にかけて、▽全国クラブ大会優勝3回で、今季からワールドの選手が新加入した六甲ファイティングブル▽東日本トップクラブリーグに定着して4年目の東京闘球団「高麗」▽トップイーストリーグ初昇格のキヤノンという各強豪と北海道内で練習試合が実現。この時期にハイレベルな試合経験をたくさん積むことができたことは、例年になく収穫です。これも2007年に札幌市内に専用グラウンドを取得した効果と考えております。 9月からの東日本トップクラブリーグでは、優勝目指してチーム一丸となって取り組んでいきたいと思っております。</p>
三鷹オールカマーズ	9-4	<p>チーム紹介] <input type="checkbox"/>創設年月日 1978年5月 <input type="checkbox"/>会員数 80名 <input type="checkbox"/>クラブ創設経緯 東京大学三鷹寮グラウンドで練習していた地域のラグーマンと在寮中の東京大学ラグビー部との出会いにより地域のラグーマンたちが自発的に集まりクラブ創設。 ～現在に至る。</p> <p>[特色] チーム名の通りで「来るもの拒まず」学閥などもなく様々な経歴を持ったものが集まっております。 戦力につきましては、キャプテン高橋正(197cm)を中心とする大型FWに新戦力も加わり、サイズ面でも更に大型化が図れましたので、いかに変更あったルールに対応できるかが今シーズンのポイントとなってくるかと思っております。</p> <p>[新戦力] 今シーズンは9名の新戦力が加入致しました。(社会人8名・大学生1名)</p>